

北米における山火事の不足

杉山 大志 (すぎやま たいし) 一般財団法人キャノングローバル戦略研究所 研究主幹

監訳 杉山大志 訳 木村史子

本稿はロジャー・ピールケ・ジュニア

The North American Fire Deficit: A fascinating new study with incredible findings

The Honest Broker

2025.2.13

<https://rogerpielkejr.substack.com/p/the-north-american-fire-deficit>

を許可を得て邦訳したものである。

本稿掲載のモノクロ図表は上記 URL を参照して下さい。



スモーキー・ベア（山火事削減キャンペーンのマスコット）には申し訳ないが、
私たちはこれほど沢山の火災を防ぐべきではなかったのだ。

今週『Nature Communications』誌に掲載された注目すべき新たな論文では、北米における山火事の過去の記録について考察している。近年の焼失面積の増加にもかかわらず、北米の様々な森林で山火事の不足が続いている（A fire deficit persists across diverse North American forests despite recent increases in area burned）、というものである。論文の著者、Parks らは、北米におけるここ数十年の大規模な山火事は決して異例なものではないことを次のように明らかにしている：

「1851年の樹木の年輪燃焼痕に関する調査サイトと米国およびカナダ全域の現代の火災周縁を調査した結果、近年の火災の増加にもかかわらず、1984年から2022年にかけて、多くの森林および森林生態系で実質的かつ持